

<http://www.kamagasaki-forum.com/rojo/>

「なにわ路情」がめざすもの

- 野宿生活者の生活や声をとりあげ、ともに考える新聞です。
- 脱野宿のきっかけとなるような紙面づくりを心がけています。
- 今までのこと、そしてこれからのこと、いっしょに考えていきたいと思います。

なにわ路情

野宿考ジャーナル
2号(隔月刊)

決断

脱野宿への支援を行っている自立支援センター。今回は野宿生活を脱し、センターへ入所したときの決断を語ります。

野宿生活の期間、缶集めや古紙の回収はやったことは無かった。仕事を辞め、自立支援センターに入るまでの3ヶ月間は手持ちの金を少しずつ使いながら食べつないだ。テントは構えず、常に社会復帰を模索していた。ある時、求人を見ようと新聞を手にしたら、ホームレスの自立支援の施設ができると書いた。ちよつとお金が底をつきそうな時だった。近くの区役所に行って、そういう機関ができるのかと窓口で尋ねた。課長が出てきていろいろと対応してくれ、なんとか巡回相談員へとなつないでくれた。そして、自立支援センターに入ることに決まった。自立支援センターに入所することに迷いはなかった。

とにかく知り合いや親戚には迷惑はかけたくなかった。(現在は調理師として就労中)

③竹井 和弥 (仮名・64歳)

会社辞めてから、大阪へ出てきて1年位かな、公園で野宿してた。缶集めしてたけどほとんど収入はなかった。水、水、ほんとに水ばかり飲んで、たまにパンの端くれ(耳)を食べて飢

②藤木 春一さん (仮名・54歳)

長居公園で2ヶ月くらい野宿をしていた。元テント生活をしてた人からシェルターというのを聞いた。世間並みの生活をしてた野宿前の自分から見ればかなり抵抗はあったが、野宿をする時点でプライドを捨てていた。シェルターに入り、仕事に少しでも早く就きたいと(シェルターの)職員の人に申し出ると自立支援センターを教えてくれ、巡回相談員になつてくれた。センター入所後から約1ヶ月後に自立支援センターに入所となった。

入所後、職員の方々には、失礼な言葉や生意気な言葉などと言ってきましたが、これは私が早く円満退所したいと思う気持ちからでした。仕事に励み、出来ることならば、もう一度家庭を持ちたいと思っています。(現在は警備員として就労中)

①小山 久信さん (仮名・53歳)

最も多い症状は咳(せき)です。軽症の場合は咳以外に目立った症状がないのが特徴

結核をうつたがうとき

大阪市は日本で最も結核患者の発生率が高い地域なのですが、とりわけ、栄養不足や不規則な生活を強いられている野宿生活者の間で結核を発病する人が増えてきています(詳しくは、後で述べます)。結核はしっかり薬を飲めば治すことのできる病気ですが、発見が遅れたり不十分な治療で中断すると死に至ることもあるので注意が必要です。

ですの、「たかが咳」でも注意が必要です。やがて病状が進むと痰(たん)や(最初は白色、やがて黄色。時に血が混じる)、発熱、体重減少などの症状が現れます。風邪や気管支炎などでも咳は出ますが、なかなか収まらない頑固な咳が続くときは、「ひょっとして結核では？」と疑ってみてください。特に、以前に結核で治療した経験を持つ方は、結核が再発している可能性がありますので注意が必要です。

まずは検査を受けましょう。あいりん地区周辺の方であれば、月に一回、大阪市保健所が無料の結核検診を行っていますので利用してください(6月3日、7月1日、8月5日、9月2日、いずれも朝10時から12時までにJR新今宮駅前のあいりん総合センター1階に検診バスが止まっています)。レントゲン検査で異常が認められた場合(結核以外にも肺炎、肺癌はいが)の診断もしてもらえます(番号は同じ場所に、医師による診察が行われます。結核だと診断された場合は、結核専門病院での入

院治療となります(医療費は「結核予防法」により、入院生活費は「生活保護医療扶助」より全額支給されます)。入院期間は病状によって異なりますが、短い人で3ヶ月から長い人だと1年程度の入院となります。

あいりん地区周辺以外の場合は、区役所福祉事務所(4月から保健福祉センターと名前が変わりましたが同じ場所です)に相談に行くことになりま。結核の疑いがあるのですが」と福祉事務所相談に行っても、対応は区によってばらばらなのが実情です。医療機関に受診をせざることもあれば、体調が悪そうであればとありえず診断がつくまで一般病院に入院となるところもありま。ひどいところでは「あいりんで行ってくれ」「自分で救急車を呼んで」「門前払いになるところもありま。結核の疑いのある野宿生活者をどのように扱うかについて、明確な基準がないの

です。救急車で運ばれた先の病院に結核の専門家がいない場合のことを考えれば、体力に余裕があれば、あいりんでの結核検診を受診するのが現実だと言えます。

いずれにせよ、一度治療を始めたら、途中で治療を中断すると、薬の効きにくい菌が生き残ってしまうので、最後まで治療を続けてください。

「大阪市の結核の現状」(H12年大阪府環境保健局刊)よりみえてくる問題点

大阪市の結核患者の割合(罹患率)は、全国平均32(人口10万人あたり、以下同)に比べて約3倍の104と発展途上国並の高水準です。中でも西成(572)・浪速(240)・中央・北区などで結核患者の割合が高い傾向にあります。野宿生活者の間での結核患者の割合は、あいりん地区での結核検診の結果や南港での越冬対策の施設入所者の検診などの結果からは1

000~2000と推定されます。

野宿生活者の結核患者の特徴として、①年代としては30~59才の比較的若い層が多い、②遅れて発見される患者が多い、発見時には重症化している患者が多い、③結核以外の病気を合併した患者が多い、④入院してから1年以上に死亡する患者が多い、などがあげられます。野宿生活者が自分で結核を疑った場合、あいりん地区での結核検診を受けるか、重症化してから救急車を呼ぶか、限られた手段しかないことは先ほど述べたとおりです。

野宿生活者の結核の蔓延状況を考えるならば、新設された各区保健福祉センターの適切な対応が求められると思います。



4年前、私は野宿生活者の聞き取り調査に参加していた。当時私は、デザイナーを目指してやっきになって作品をつくるものの、自分の世界を表現できないことに、どうしようもないあせりといらだちを感じていた。

その先人とは、聞き取りに慣れたところに出会った。彼はタバコに火をつけたがら空カンでつくった灰皿を差し出した。そして興味しんしんでそれを眺めていた私にこういった。

「必要なものをつくるのに何が足りな

●編集後記 4年前の先人はどうしているだろうか



いということはない」暗中模索の頭に光が射した。自分が今持っているモノ、それでできる最大限をつくれればいい……。しばらく灰皿を持ったままだった私に、彼はそれをくれた。

現在私はフリーランスのデザイナーとして仕事をしている。タバコはやめた。彼の顔さえも忘れてしまった。けれども、手元の灰皿を眺めてはあの時の言葉を自分に言い聞かせる。

先人よって指し示された道はまだ半ばである。(二十七歳 本紙編集・デザイン担当)



えをしのいでた。そうした中で、教会の牧師さんがご飯と味噌汁をくれたり、たまに散髪やお風呂を用意してくれた。たぶん教会の関係者やと思うけど、民生委員の人が居て、そのひとが巡回相談員に連絡を取ってくれたんやと思う。一番最初、巡回相談員から自立支援センターの話聞いたときは入りたくないと思った。野宿者の集まりである施設には、なんか近寄りたかった。次に巡回相談員が来たとき、「竹井さんやったら、きつと仕事見つかるよ」と声をかけられ、その言葉で入ることに決めた。(現在は居宅保護受給中)

④大野 勝さん (仮名・55歳)

以前していた警備の勤務日数が段々と減り、50歳ごろから野宿生活をはじめた。それから1年ちよつとはテントから週に2回くらいは警備の仕事に出動していた。そのあと、体を壊して、1年くらい入院していた。退院してからは梅田周辺でまた野宿してたけど、近くでテント張っていた人とかが、自立支援センターに入り始めていたし、いろいろと噂にもなっていた。仕事があるのかどうかはともかく、今の生活から脱出できることを希望に、近くの区役所へ行き、巡回相談員に連絡を取ってもらい、自立支援センターへの入所が決まった。(現在は再就職先を探している)

編集部コメント

今、きびしい状態にある人たちにとって、自立支援センターはひとつの光になると思います。仕事のない人もセンター利用をきっかけに、新しい価値を生み出すことが可能と考えるからです。センター相談員は夢実現の補佐役にして同伴者です。センターを活用してみることをおすすめします。

ただセンター利用を希望しても入所に時間がかかり、長期間の待機は就労意欲をそいでしまいかねないので、私たちはこれらの問題を考える必要があります。待機者があつた場合、別機関で引受ける制度があれば考えますが今後の課題です。

また巡回相談員は大阪市内全域を訪問しますが、一部まだの場所もあるようなので、そんな時は福祉事務所をお訪ねください。(さ)

紙面			
2	自立支援センターの一日	3	なにわ路情への読者の声
2	【投稿】負けたらあかん人生は	4	こちら路上医療相談室
2	●資料● ホームレス自立支援法全文(最終回)	4	●編集後記● 4年前の先人は...
3	日雇い・野宿の仲間を介護して	4	「カマヤんと八起さん」ありむら潜

発行元
NPO元氣百倍ネット
なにわ路情編集局

〒530-8090 大阪中央郵便局留
NPO元氣百倍ネット
「なにわ路情編集局」係

tel 06-4397-9305
e-mail rojoinfo@zap.att.ne.jp
<http://www.kamagasaki-forum.com/rojo/>

自立支援センターの一日

自立支援センターでの一日はどんなものなのでしょうか。今回は昨年の暮れに入所された前田さん（仮名45歳）の生活を紹介します。

朝は6時半には起きるなあ。タバコを吸ったりしてゆっくりしてる。中には談話室という部屋で、テレビを見たり新聞を読んでいる人もいます。7時になると放送で朝食の案内が流れて、食事。今日はロールパン2個とコーヒー、小さなオムレツとマカロニサラダだった。週3回

がパン食で、それ以外は米飯になる。食堂が狭いので3交替で飯を食うことになり、そんなに忙しくない。8時にはセンター内作業として、センターの掃除があつてね、今日はトイレをやった。部屋のみんなどやるから20分もあれば終わるかな。そのあとは、ハローワークに行ったりする。

時には夕食なんだけど、食事の順番が早いときには先にメシを食べることにしてる。そのころには仕事から帰ってくる人もいるから、その話を聞いたりもする。結構参考になる話もあって、自分の仕事探しにも役に立ってるかな。消灯は21時なんだけど、談話室は23時まで開いてる。たいがい、22時から23時には寝ることにしてる。

約2ヶ月、公園で野宿してて巡回相談員からセンターをすずめられた時には、「考える」って言ったけど、結局答えは出なかったよ。「やるだけやってみるか」そんな気持ちで今、ここにいるよ。

ホームレス技能講習	
1	車両系建設機械(整地)初心者
2	車両系建設機械(整地)経験者
3	フォークリフト運転 初心者
4	フォークリフト運転 経験者
5	玉掛
6	小型移動式クレーン
7	高所作業車
8	締め固め用機械
9	車両系建設機械(不整地)
10	クレーン(荷重5t未満)
11	刈払い機作業従事者
12	チェーンソー(伐木)
13	第二種酸素欠乏危険作業
14	アーク溶接(初心者)
15	車両系機械(解体)
16	粉じん作業
17	職長教育
18	危険再認識教育(車両系)
19	大型自動車運転
20	大型特殊自動車運転
21	大型自動車・大型特殊自動車運転
22	大型自動車運転
23	アーク溶接(経験者)
24	ガス溶接
25	足場の組立等作業主任者
26	土止め支保工作業主任者・地山の採掘作業主任者
27	型枠支保工の組立等作業主任者
28	鉄骨の組立等作業主任者
29	ガス溶接
30	オフィスクリーニング研修初級
31	オフィスクリーニング研修中級
32	オフィスクリーニング研修上級
33	マンション管理員講習
34	ビル設備管理業務講習
35	ボイラー取扱技能講習
36	カーペットクリーニング実技
37	クリーニングしみ抜き講習
38	調理講習 たこ焼き専科
39	調理講習 麺類専科
40	調理補助研修
41	調理経験者のための調理師資格取得講習
42	警備員教育
43	原付免許講習
44	自動車運転免許失効者回復講習
45	農業ヘルパー研修
46	森林保全従事者研修
47	グリーンメンテナンスマニ
48	パソコン基礎講習
49	介護ヘルパー2級研修
50	防火管理者講習

大阪では、自立支援センター入所者と仮設一時避難所 西成公園(シエルター)入所者が受講対象者となるため、現在野宿生活をされている方はその対象とはなりません。現在のところ、農業ヘルパー研修 大阪府豊能郡能勢町にて約1ヶ月間の宿泊研修、ハロースクリーニング(ビル清掃)初級研修(社会福祉施設等にて12日間の通いの研修が実施されています。

日雇い・野宿の仲間を介護して

NHK放映「もう野宿にはもどさない」の現場とその舞台裏(上)



NHK総合、2003年4月11日
関西クローズアップ
19時30分～19時55分に放映。
翌日再放送。

野宿生活や建設日雇いを金ヶ崎で経験した人が、ヘルパー資格を取り、ふたたび金ヶ崎で、野宿体験のある高齢単身者を介護する、いわゆる「金・金介護」がNHKで取材・報道されました。放映された3週間後、浪速区の元気百倍ネットのデイセンターに、テレビに登場したおふたりのヘルパー、笠川さん(58歳)、間さん(42歳)を訪ね、反響やその後の介護の状況、思いなどを聞きました。

知らん人が立ち止まって、顔みてくれた。あつ、ヘルパーさんやと。間さん：知らん人でも、自転車乗りながら指さして、テレビ出てたなあ、って。追いかけてくる人もおるしなあ。

でもテレビでは映ってませんでしたが、もう入院という方向で、僕はずいっとお医者さんから押されてまして、もう折れかけてたんです。しかし、あの日は入院させるのではなく、今後のための顔つなぎと思ってたんです。ところがあの医者さんは、もう入院しましょう、しましように、しつこかった。いや、それは違うでしょう、それは本当に思いました。

うまいこと撮っているところもありますよ。あの藤さんが、べろんべろんになって帰ってきた次の日やけど、もうあかのちやうか、いうことになってね。その会議がテレビで放映されたんです。あの時アルコールの病院が紹介され、入院させたという話が出ました。もう限界ちゃうかいって。ただ僕のなかでは限界というよりも、今までお金もたせて甘やかしてきたので、もっとやり方かえたらまだ行けるんちゃうかと思ったりもしてましたからねえ。そやから悩んでたんです。テレビの画面でうまいことその悩みが顔に出てたんやね。演技ちゃうかって言われたけど、あれは演技じゃないです。まじでしたよ。笠川さんもういろいろなケースあるよな。

（つづく・2回連載）

笠川さん：とにかくテレビの反響すごかったね。

番組の後半では、野宿生活から脱出した高齢者でアルコール依存の問題をかかえる藤本さん(72歳)と、介護する間さんの取り組みが紹介されました。3月の初旬、

テレビでも出たように、藤本さんはこちらで管理している財布、いまだにどこにあるんや」って続けます。またアルコール専門病院で先生が入院を勧めるシーンを見て、自分が病院を拒んだったんや、って言ってます。

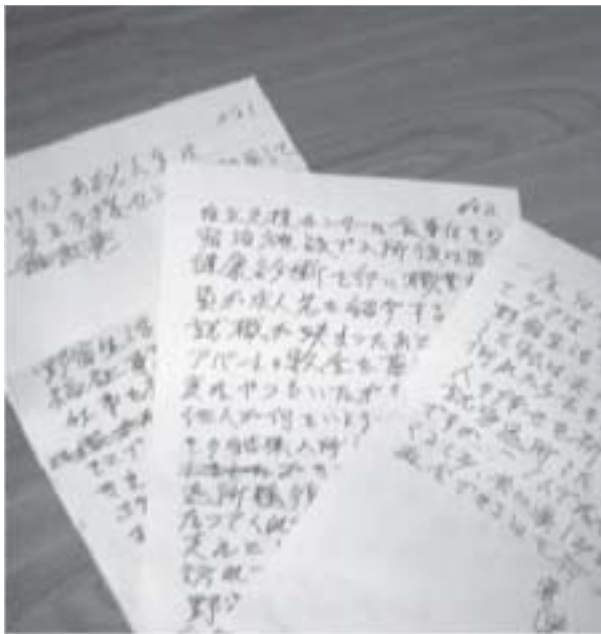
野宿生活に限界を感じた私は、福祉事務所をたずねました。仕事を探しに行くにも金がない。泊まる場所もない。そこで一時宿泊施設を紹介していただきました。3カ月半のベツドでねました。あの巡回相談員と進路について相談し、自立支援センターを紹介していただきました。

自立支援センターは食事付きの宿泊施設で入所後は医師が健康診断を行い、職業相談員が就職先を紹介する。就職が決まったらええのちや。酒がわるいのち

稿 負けたらあかん人生は
投 自立支援センターを利用して再出発
日野正人さん 67歳・仮名

野宿生活に限界を感じた私は、福祉事務所をたずねました。仕事を探しに行くにも金がない。泊まる場所もない。そこで一時宿泊施設を紹介していただきました。3カ月半のベツドでねました。あの巡回相談員と進路について相談し、自立支援センターを紹介していただきました。

自立支援センターは食事付きの宿泊施設で入所後は医師が健康診断を行い、職業相談員が就職先を紹介する。就職が決まったらええのちや。酒がわるいのち



■ 写真は日野さんの直筆の手紙

資料
ホームレス自立支援法全文
(最終回)

第三章 財政上の措置等
(財政上の措置等)
第十条 国は、ホームレスの自立の支援等に関する施策を推進するため、その区域内にホームレスが多数存在する地方公共団体及びホームレスの自立の支援等を行う民間団体を支援するための財政上の措置その他必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

第四章 民間団体の能力の活用等
(民間団体の能力の活用等)
第十四条 国及び地方公共団体は、ホームレスの自立の支援等に関する施策を実施するに当たっては、ホームレスの自立の支援等について民間団体が果たしている役割の重要性に留意し、これらの団体との緊密な連携の確保に努めるとともに、その能力の積極的な活用を図るものとする。

第十二条 国及び地方公共団体は、ホームレスの自立の支援等に関する施策を実施するに当たっては、ホームレスの自立の支援等について民間団体が果たしている役割の重要性に留意し、これらの団体との緊密な連携の確保に努めるとともに、その能力の積極的な活用を図るものとする。